

やさしい

バラの手入について

伊藤 奎 太郎

春も半ばとなり、若葉の頃となれば、四月始めに植えたバラもどんどん新しい葉を出し成長を始めております。喜久枝さんのところでも、叔父さんに教えられた通りに十分念を入れて植えた数本のバラは、一本も欠ける事なくすくと伸びております。天気の良い日曜日は、喜久枝さんも朝からバラにつききりて手入しているのです。その後叔父さんの家へ行く機会もありませんでした。併しこの頃バラを見ているとなかがついている様子なので、これは大変とばかり、幸に春雨の降る静かなある日曜日久し振りで叔父さんの家へ参りました。

叔父さんは、「さつぱり見えなかつたけれどバラは元気に育っているかい」と話しながら、

「そろそろ虫も出て来たようだし、外は雨が降っているから家の中で写真や画を見ながら病気や虫を中心に今日は話をすすめていこう。北海道において、先ず一般的な病気としてはウドンコ病と黒点病の二つだ。この外に根に発病する根頭癌腫病というものがあるよ。「黒点病」は、バラの成育期間中いつでも発生する病気だよ。この病気の発生は根に近い葉からはじまり黒褐色の斑点を葉面に表わす。そうしてだんだん上の方

へと移っていくのだ。しかも病葉は、次から次へと落葉しこのため株は日毎に衰弱していく。この病気の予防法は、病気に侵された葉はやく拾い集めてひとまとめにして焼却する事だ。いつ迄もちらかしておく事は良くないね。又殺菌剤としては、三斗式石灰ボルドウが有効だがね。この薬を少量作る事は不便だし、又素人には一寸難しいので、むしろ「ダイセン」とか「三共ボルドウ」を使つた方が良いだろう。新しい葉が出はじめて来たら十日に一度位「ダイセン」では水一升に十二匁「三共ボルドウ」では水一斗に十五匁位を溶かしてかけてやる事だ。次に「ウドンコ病」は、一度発生したら始末におえない病気だよ。特に温度と湿度の高い年は注意しなくてはならないね。しかし秋九月末からでも長雨続きだと大発生を見るから油断は出来ないね。

この病気の徴候は、葉や蕾がウドン粉をつけたように白くなり、しかも葉がちりちりにまかれてくる。余りひどいと葉や蕾を枯らす事もある位だ。この病気に對しては、常に樹を強健に育てて抵抗力をつける事が肝心だ。殺菌剤としては、春先の硫黄合剤の撒布が大変有効らしい。この外にソイドの方が使い易いからその方を使用したら良

いだろう。この薬は水一斗に對して十二匁位をとかして撒布するのが良いだろう。余り濃度が高いと薬害を生ずるから適量を誤らぬ事だ。とにかくこの病気が出たと思つたら何回でも撒布してやる事が大切だよ。とにかく病気にしる害虫にしる早期発見とんでもない事になりかねないからとにかく気をつけてやる事だ。根に出る病気では「根頭癌腫病」という手のつけられぬ病気がある。苗を植える時に良く根を調べてすこしでもこぶのあるようなのは焼却する事だ。又植えた苗木で発病したらすぐ抜き取つてやはり焼却すると同時に跡地は、十分日光に当て、石灰乳（水一斗に石灰一貫）四斗を注入して消毒する事だ。病気の主なものは大体この位だね。

次に害虫の方に話を移そう。バラに着く虫は多いけれど普通北海道で見られるものを上げると「蚜虫・赤ダニ・カイガラ虫・チユウレンジ蜂・黄金虫等だね。この内「蚜虫・赤ダニ、カイガラ虫等は専ら葉や蕾茎等について直接汁液を吸収する種で黄金虫・チユウレンジ蜂の幼虫は専ら葉や花を片端から食べてしまう害虫だ。前者に對しては接触剤、後者に對しては毒剤が主として用いられているよ。順次に説明していこう。

「蚜虫」は早くから新しい葉や蕾にむらがつて、盛んに汁液を吸収してバラを弱らせる。とにかく一度発生して葉をまいたらどうしようもないよ。いくら葉の上から薬をかけてもどうにもならない。早く見つけてロテゾール八百倍液、馬拉ソン千二百倍液を撒布する事だ。始めの内は手でつぶしても良い。蚜虫はなんにでもつくからね。キヤベツ・梅・梨なんでもつくよ。バラの葉掛けといえは、蚜虫の防除におわれる位だ。

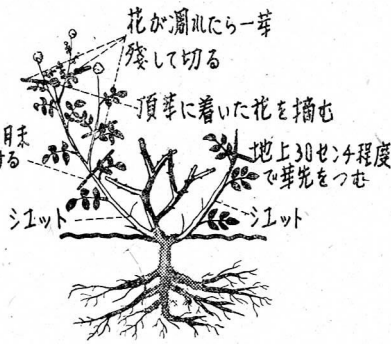
次は「赤ダニ」だが、この虫は葉裏に寄生しやはり汁液を吸収する。特に乾燥のひどい年は大変な害をするよ。葉の色がなくなつて落葉する位だからね。しかも最初の内は目には見えない位小さいので素人にはこの虫の被害だという事がわからない位だ。この虫に對してはやはり早期に接触剤としてロテゾール六百倍液、馬拉ソンの千倍液等が良いだろう。外に新しい葉で良いものもあるが取扱いが困難なので普通の人には今のところすすめる事は出来ない。一度撒布したら連日かける位でないといこの虫はおさえきれないね。喜久ちゃん出来るかい。

「カイガラ虫」も厄介な虫だ。これはかいがらのようなからを作つて茎等に吸い着いて盛んに汁液を吸収する。この虫が余りつくと樹勢は全く弱つてしまう。かいがらが出来る薬をかけても効果がないから全くどうにもならないね。防除法としては、春芽の出ぬ内に古ハブラシ等で茎についているカイガラ虫をこすり取り、DNマシン油乳剤の五十倍液をかける事だ。又鱗化當時は一番抵抗力がないからこの時期（六月下旬から七月上旬にかけて）にロテゾール八百倍液を撒布すると大変効果がある。

次は「黄金虫」だ。もうそろそろ出て来ると思うが、黄色い羽を光り輝せながら飛び廻り盛んに葉や花を喰害して歩くのだ。喜久ちゃんも小さい時歌つたらう黄金虫の

歌を、歌に出てくるような虫ならいいけれど実際は害虫だよ。特に花をやられるので困る。この虫に対しては硫酸鉛のような毒剤が良いだろう。又見つけ次第とつて殺す方が効果があるね。

それから良く見られるもの一つに「チュウレンジ蜂の幼虫」がある。この幼虫は春から秋にかけて、緑色の頭を振り廻しながら黒い体を盛んに動かして葉を片端から食べて歩く。この虫にも硫酸鉛が良いと思うよ。次に薬剤だが今迄話をしたのは、全部水にとかしたり水で薄めたりして使う液剤であつて、粉剤もあるが、現在未だ適当なものがないから、液剤を使用しての方が良いだろう。又葉によつては混合して使用出来るものもある。例えば「ソイド」と「硫酸鉛」と「ロテゾール」等は良い例だ。この組合せだとウドンコ病とともに黄金虫・蚜虫・赤ダニ等が防除出来るわけさ。しかし薬によつては、混合出来ない物もあるし単用しても間をあけなければならぬものもある。例えば、石灰硫黄合剤を散布した後石灰ボルドウ等の銅剤は、三週間位間をおかなくてはならないとさえいわれているから散布する時は注意して散布する事が肝心だ。最後にいい忘れだが薬剤散布の



シュットの処理法

時は、必ず展着剤を入れてかける事を忘れてはならない。展着剤としては「グラミン」とか「リノー」が良いだろう。まあざつと病害虫に関し説明したが

いずれその時々実物について見た方が覚えが早いよ。何時でもわからない事があつたら実物を持つて聞きにおいで。では一服しよう」

と叔父さんは、お茶を注ぎながらあらためて又話をはじめました。

「大体管理面の大きつぱなところは先日お話しした通りだが、今年始めて植

えた人例えば喜久ちゃんのような人は、成る可く摘心して花を沢山つけず樹を早く充実させるようにしなさい。摘心の方法はね、バラの葉には、一本の枝について見ると元の方はみんな小さい葉が五枚ついている五枚葉だがこれを本葉といつているのだよ。この本葉が一本の枝に七枚ほどついでいて、その上から小葉の数がすくなくなり三枚葉という風になつて蕾がつくのだよ。だから蕾が見えたら上から数えて二番目位の本葉のところで指先で心ごと摘み取つてしまふのだ。

次にこの前も話をしたが摘蕾という事は



凋れた花の切り方

仕方がないからそれぞれ枝が分れたところから二つ目位まで葉を残して切つておく方が良いでしょう。ここに模式的にかいたのがあるから見てください。

きなさい。

次に花の切り方だがね、咲いたものを何時迄もつけておいてはいけません。この前

話したように凋れたら五枚葉の上で切り捨てる事だ。切花にする際も切り取り箇所は同様で花が三分咲き位の時が良いだろう。

とにかく花が咲き始めたら毎日ハサミを持つて咲ガヤを切る事だ。絶対に実をつけてはだめだよ。夏の管理や追肥・薬剤散布は今迄話をした来たが夏の終り頃になると、木の形も乱雑となり、樹の内部もこみ合い、病気の出た枝等も放置されて風通しも悪くなつていくからそのような無駄な小枝、枯れた枝を取り除いて内部に十分日当たりと風通しを良くし充実した元気の良い枝に勢力を集中させよ花を咲かせるようにする事だ。北海道のような寒い地方は余り剪定をやりすぎるとかえつて新しい枝葉が出て来て冬籠の準備が出来ぬ内に冬になり枯死しやすから小さい枝とか内部に入り込んだ枝を整理する位にとめておく方が良いと思うね。

大体バラの作り方についてはこんなことだね。北海道は冬越しのことが大切だが、この事は改めてお話ししよう。

要するに自分で育てれば自然に愛情が湧く、そしてよく体験することだね。その内に叔父さんも喜久ちゃんのバラを見せて貰うよ。近い内にバラ展も開かれる。その時は行つて皆さんの作品を丁寧に観てくる事だ。大いに得るところがあると思うよ。大分長い話をしたので疲れたらう、今日はこれ位で終りにしておこう」

とつて話を止めました。喜久枝さんは、叔父さんに丁寧に御礼申し上げ、今に叔父さんに負けないような立派な花を咲かせる事を心にちかひながら家路につきました。